気仙沼大島大橋

夢から現実に
未来へ架かる橋開通
― 開通への想い ―

４月７日に開通が迫った「気仙沼大島大橋」。
その完成は、大島で暮らす方々をはじめとした市民の皆さんが、「島に橋を」と声を上げ続けた半世紀末の成果が実ったものです。
今回は、大橋開通に深く関わってこられた３名に、開通への想いをお聞きしました。

2019年 4月7日(日) 午後3時 開通

開通を機にますますの市全体の発展を期待

水上（みずかみ） 忠夫（ただお） さん

Profile／
市内長崎在住。大島漁業協同組合勤務、気仙沼市議会議員、大島漁業協同組合代表理事組合長、大島地区振興協議会会長など歴任。

先祖からの悲願であった大島架橋事業が、昭和42年に県勢発展計画に位置付けられ、架橋実現が現実味を帯びてくると、島内ではその賛否で揺れた。水上さんは市議会議員として大島の発展は橋があってこそとの想いで、実現に向け粘り強く働きかけを行ってきた。

その成果が実り、昭和53年には市議会で架橋賛成の請願が採択された。その後、県への要望活動を継続して行いながら、架橋の早期実現をずっと心待ちにしてきた。

架橋設置工事を目の当たりにしたときの感想を、「何千、何万と関わってきた大勢の方のおかげで橋が架かった。多くの時間がかかったが、とにかく充実感でいっぱい。自分自身より、周囲の人たちが渡って喜ぶ姿を見て、感慨深い」と話す。

橋の開通をきっかけに、大島独自の産業や景観などの強みを活かすことで、市全体のますますの発展と成長を、水上さんは願う。

大島架橋事業 これまでの歩み

1967年（昭和42年）
県勢発展計画に位置付け

1987年（昭和62年）
気仙沼大島架橋促進期成同盟会結成

2001年（平成13年）
県が架橋整備を発表

2011年（平成23年）
震災の被害により県道のルートを見直し

2012年（平成24年）
事業着手式

2013年（平成25年）
大島架橋事業着工式

「署名活動や陳情で苦労したのは親世代。昔の人たちのおかげで今がある。その世代が残るうちに渡れるようにしたいという想いが強かった」と話す小松さんは、祖父の代から三代にわたり架橋の実現に向けた活動を行ってきた。これからの子世代は橋のある生活が当たり前になり、通学などでの不便な面の環境を整えられることは良いことだという。小松さん自身、学生時代に通学面などで大変苦労した経験があった。

市外で就職後、大島へUターンした時、近隣住民の気心が知れていることや、島民の時間感覚がゆっくりなことなど、以前住んでいた際に気付かなかった大島らしさを実感した。

これまで、架橋関連の現場見学会や、先進地視察後の島民向け報告会などを企画し、開通後の不安を最小限に抑えるための活動を行ってきた。「これからは、まだ後手に回って完結していない部分を精査し、大島らしさを守りながら、島民が納得する開発・地域づくりに関わっていくことが私のライフワーク」と話す。

開通後も大島らしさを大切に

小松（こまつ） 武（たけし） さん

Profile／
市内亀山在住。平成24年から大島架橋促進協議会会長。

みんなの頑張りのおかげ

小野寺（おのでら） 好子（よしこ） さん

Profile／
市内田尻在住。浦島会会長。浦島会は、鹿折地区の二ノ浜、三ノ浜から大島に渡った方を中心に結成された会。

「みんなで両手いっぱいに署名を抱えて、何度も県庁へ足を運びました。本当に橋を架けるためにいろいろな活動をした。みんなのおかげです」と現会長の小野寺さん（写真左奥2番目）は話す。「橋を架けっぺし、一生懸命頑張れや」と初代会長に誘われたのがきっかけで浦島会に参加した。

一番の思い出は、婦人会や青年会と一緒に行った署名活動で、島内だけでなく、市内外でも継続的に活動してきた。仙台へ行き、雨の中、道行くひとりひとりに署名の声掛けをしたり、仙台の勾当台公園で、大漁旗で作った半纏（はんてん）を着て、気仙沼音頭を踊って啓蒙（けいもう）活動をしたこともあった。

開通にあたって、「車で来る人たちも、島内を歩いて散策をしてほしい。天気の良い日は、石巻の金華山まで見渡せる風景や、島ならではの時間の流れや雰囲気を、肌で感じてもらえたら嬉しい」と話す。

▶浦島会結成時の写真（平成6年）

2014年（平成26年）
架橋本体工事着工式

2017年（平成29年）
架橋本体工事完了

2019年（平成31年）
4月7日
気仙沼大島大橋 開通

一般県道大島浪板線:周辺マップ

開通日は渋滞の発生が予想されます

気仙沼大島大橋開通日の４月７日（日）午後３時前後の時間帯は、渋滞の発生が予想されます。大島大橋の近くに住む方や緊急車両の通行の支障となりますので、開通待ちの路上駐車はご遠慮ください。なお、開通待ちの車両待機場所として、次の２か所を準備しています。ぜひご利用ください。

●**車両待機場所**／

浪板側：「鹿折ふれあいセンター駐車場」市内中みなと町５-12
（大島大橋まで約５ｋｍ）

大島側：「田尻地区漁港駐車場」市内田尻 217（大島大橋まで約２ｋｍ）

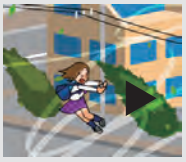
※供用時間に向けた車の順番案内は行いませんので、ご了承ください。

気仙沼大島大橋 強風時の通行規制のお知らせ

利用者の安全を確保するため、強風時には通行規制が行われます。規制の際は、大島大橋両側の道路情報板と防災無線によりお知らせします。

①風速 20m／秒以上のとき

何かにつかまっていないと立っていられない場合。



▶**歩行者・二輪車通行止め**

②風速 25m／秒以上のとき

通常の速度で車を運転するのが困難になる場合。

▶**全面通行止め**

※風速は「10 分間の平均風速」で瞬間風速ではありません。
※風速は大島大橋中央に設置している「風速計」により計測します。　気象庁ホームページよりイラスト引用

●**問い合わせ先**／ 気仙沼土木事務所　大島架橋建設班　☎ 24-2537

［市長コラム］

ゴーヘイ！ 気仙沼

－ Go Ahead ! Kesennuma －

第87回　４月１日にあたって

大震災発生以来、本市は数えきれないほどの企業や団体の支援を受けてきました。その中でも、復興計画策定の事務局機能を担っていただいた三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング(株)には、その後も折に触れお世話になっており、現在はデータやＡＩ（人工知能）を使って、本市の社会課題を解決出来ないか、一緒に考えてもらっています。

３月中旬に同社の村林聡（むらばやしさとし）社長が来市、気仙沼高校のスーパー・グローバル・ハイスクール（ＳＧＨ）の取組みの一環として、同校の１・２年の生徒全員向けに講演をしていただきました。題は「デジタル革命の進展と皆さんに求められる資質・能力」。村林氏は高校では理数科に入ったものの物理が苦手なことがわかり、大学は経済学部に進学、銀行に就職したものの、ほどなくシステム部に異動、その後システム畑をひた走り、結果、三菱ＵＦＪフィナンシャルグループの情報処理部門の最高責任者になられた方で、その過程をセレンデピティ（ここでは「偶然をきっかけにして幸運をつかみ取ること」でしょうか）と表現されていました。

進学や就職、第一志望でない世界に入ったり、配属されたりすることはよくあることで、我慢して勉強するうちに、その道を極め、天職と思えるようになり、社会に貢献し、高い評価を受けた例は数多くあり、と言うよりその方が多いかも知れません。

４月１日、多くの人が新しいスタートを切る時です。どの人にもセレンデピティは起こり得ると信じて、目の前の勉強や仕事に、まずは集中することが大事ということだと思います。

講演終了後、生徒からは多くの質問が出ました。①どの時点でこの道が自分の道と思ったか→30 歳を超えたころ②ＡＩが発達しすぎて人間を攻撃しないか→ＡＩはまだ発展途上、将来その可能性はあるが、それをしないように機能を持たせることも考えられる③ネットで何でも調べられるのに、何故、そんなに本を読むことを推奨するのか→正しい情報ではない可能性があるので出版されているものの方がよい、などなど。高校生が今回のテーマをどこか他の世界のことと感じたのではなく、自分の世界の話として積極的に聴講していたことが分かり、とても頼もしく感じたところです。

大震災後、本市には日本中の識者やリーダーが訪れています。市民の皆さんがその方たちと身近に接する機会をこれからも創出していきたいと思います。

気仙沼市長　菅原 茂

循環型社会推進課からのお知らせ

大島にお住まいの方へ

クリーン・ヒル・センター利用についてのお知らせ

大島大橋架橋開通後は、クリーン・ヒル・センターへの直接持ち込みが可能になることから、利用方法についてお知らせします。

- **受付時間**／午前９時から正午、午後１時から４時（土・日曜日、祝日、年末年始休業日を除く）
- **持込方法**／市のごみ出しルールと同様に分別し、必ず指定袋に入れてください。新聞、雑誌、段ボールなどは紙ひもで十字に縛ってください。雑がみは、紙袋に入れて口を閉じてください。粗大ごみは袋に入れずそのまま持ち込んでください。
- **処理手数料**／（50kg 当たり）
  ごみは種別毎に 324 円。ただし、発泡スチロール・食品トレイは 2,268 円。
  ※50kg 未満は 50kg として計算します。
- **問い合わせ先**／
  市循環型社会推進課　☎ 22-9680

大島大橋開通に伴い次の補助が終了します

▶**離島での廃車両の海上輸送費の補助**
使用済車両の適正な処理を行うために設置された補助が終了します。
※該当する場合は海上輸送した日から60日以内に申請してください。
（市循環型社会推進課　☎ 22-9680）

▶**し尿汲み取りに係る収集車航送料の補助**
船舶を利用してし尿収集車を移送する離島居住者の経済的負担の軽減を図る目的に設置された補助が終了します。
（市循環型社会推進課　☎ 22-9680）

▶**離島葬祭特別交付金**
大島地区から火葬目的のため船舶を利用して遺体を移送する遺族の経済的負担の軽減を図る目的で支給していた交付金が終了します。
（市環境課　☎ 22-3417）